△ベネット錠・▼アクトネル錠　［内］

【重要度】★★【透析患者に投与禁忌】　【一般製剤名】リセドロン酸ナトリウム（U）　sodium risedronate hydrate　【分類】骨粗鬆症治療剤
【単位】△2.5 mg/錠，▼17.5mg/錠［週 1 回製剤］，▼75mg［1 か月製剤］
【常用量】■2.5mg/日■17.5mg を 1 週間に 1 回■75mg を 1 か月に 1 回
【用法】起床時に十分量（約 180mL）の水とともに経口投与し服用後少なくとも 30 分は横にならず，水以外の飲食や他の薬剤の経口摂取も避ける（Mitchell DY, et al: Br J Clin Pharmacol 48: 536-42,1999）
【透析患者への投与方法】高度な腎障害（Ccr 30mL/min 未満）では排泄遅延のおそれがあるため投与禁忌（1）【その他の報告】データがなくできれば避ける（17）
【保存期 CKD 患者への投与方法】腎障害患者には慎重投与で，Ccr 30mL/min 未満の患者には禁忌（1）【その他の報告】Ccr 20mL/min 以上なら通常用量（Mitchell DY, et al: Br J Clin Pharmacol 49: 215-22, 2000）Ccr 30mL/min 以上なら通常用量（U）Ccr 15～30mL/min：減量の必要なし（17）
【特徴】骨粗鬆症，骨ページェット病の治療に適用されるビスホスホネート．骨のヒドロキシアパタイトに結合して破骨細胞を阻害し骨吸収を抑制する（U）ステロイド骨粗鬆症に対する骨折ハイリスク群への第一選択薬（ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン 2014）
【主な副作用・毒性】食道穿孔，食道潰瘍，食道炎，胃潰瘍，十二指腸潰瘍等の上部消化管障害，消化器症状，過敏症，肝障害，血球減少，めまい，しびれ，皮膚炎，血管浮腫，動悸，脱毛，霧視，味覚異常，歯肉腫脹など．顎骨壊死の報告あり（1）
【安全性に関する情報】eGFR 30mL/min/1.73m^2 未満でビスホスホネートによる低 Ca 血症のリスク増加（1）
【モニターすべき項目】血清 ALP，消化管障害，血清カルシウム
【吸収】食事摂取により吸収は低下する、水以外の飲料で錯体形成（1）過量投与時には牛乳など陽イオン含有剤が効果的（U）
【F】0.63%（1,U）0.62%（Mitchell DY, et al:　Pharm Res 18:166-70, 2001）
【tmax】絶食下で 1～1.5hr（1）1hr（U）
【代謝】代謝されない（1,U）
【排泄】経口投与後の尿中排泄率 0.37～1.18%（1）0.8%［po，72hr まで］（1）24 時間以内に 65%が、4 週間以内に 85%が尿中に回収（Mitchell DY, et al: Pharm Res 18:166-70, 2001）【CL/F】440～510L/hr（1）Ccr 30mL/min 未満の患者では腎 CL が 70%以上低下する（1）腎 CL/総 CL は 87%（Mitchell DY, et al:　Pharm Res 18:166-70, 2001）腎 CL は健常者に比し Ccr 20mL/min では 82%に低下（Mitchell DY, et al: Br J Clin Pharmacol 49: 215-22, 2000）
【t1/2】1.5～2.0hr（1,U）β相 11.4hr（1）
【蛋白結合率】23～25%（1）
【Vd】6.3L/kg（U）Vd/F=3720±3339L/man（1）投与量の 60%が骨に分布［ラット，イヌ］（U）Ccr 20mL/min の患者では 69%に低下（Mitchell DY, et al: Br J Clin Pharmacol 49: 215-22, 2000）
【MW】350.13
【透析性】骨に分布するので，透析性は低いと思われる（5）資料なし（1）
【TDM のポイント】TDM の対象にはならない【O/W 係数】水相に分配（1）
【相互作用】水以外の飲料，食物（特に牛乳，乳製品），多価陽イオン含有製剤，制酸剤，ミネラル入りビタミン剤等：同時に服用すると本剤の吸収が妨げられることがあるので，起床後，最初の飲食前に本剤を服用し，かつ服用後少なくとも 30 分は左記の飲食物や薬剤を摂取・服用しない（カルシウム等と錯体を形成する）　（1）
【効果発現】3 ヶ月という報告あり（U）
【効果持続】16 ヶ月という報告あり（U）
【備考】英国人に 5mg 投与と日本人の 2.5mg 投与したときの血中濃度はほぼ同じ（1）男性患者に対する使用経験は少ない（1）
【更新日】20230130

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。